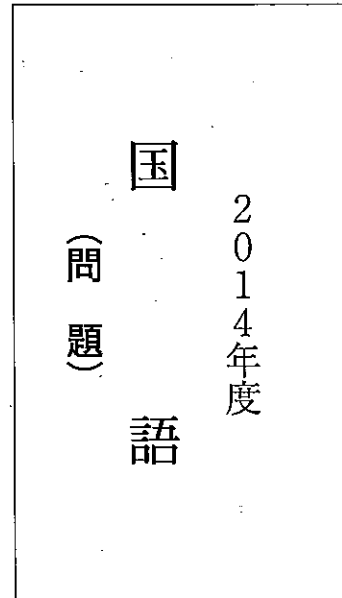




< H26082016 >

注意事項

- 1 試験開始の指示があるまで、問題冊子および解答用紙には手を触れないこと。
- 2 問題は2～6ページに記載されている。試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁および解答用紙の汚損等に気付いた場合は、手を挙げて監督員に知らせること。
- 3 解答はすべてHBの黒鉛筆またはHBのシャープペンシルで記入すること。
- 4 マーク解答用紙記入上の注意
 - (1) 印刷されている受験番号が、自分の受験番号と一致していることを確認したうえで、氏名欄に氏名を記入すること。
 - (2) マーク欄にははつきりとマークすること。また、訂正する場合は、消しゴムで丁寧に、消し残しがないようによく消すこと。

マークする時	● 良い	○ 悪い	○ 悪い
マークを消す時	○ 良い	○ 悪い	○ 悪い

- 5 記述解答用紙記入上の注意
 - (1) 記述解答用紙の所定欄(2カ所)に、氏名および受験番号を正確に丁寧に記入すること。
 - (2) 所定欄以外に受験番号・氏名を書いてはならない。
 - (3) 受験番号の記入にあたっては、次の数字見本にしたがい、読みやすいように、正確に丁寧に記入すること。

数字見本	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

- (4) 受験番号は右詰めで記入し、余白が生じる場合でも受験番号の前に「0」を記入しないこと。

(例) 3825番

↓

万	千	百	十	一
	3	8	2	5

- 6 解答はすべて所定の解答欄に記入すること。所定欄以外に何かを記入した解答用紙は採点の対象外となる場合がある。
- 7 試験終了の指示が出たら、すぐに解答をやめ、筆記用具を置き解答用紙を裏返しにすること。
- 8 いかなる場合でも、解答用紙は必ず提出すること。

一 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

都市が都市らしくある条件は、そこに選抜肢がいっぱいあることだ。¹「反世界」が組み込まれていると言ってもいい。古い町にあっていまの郊外のニュータウンにないものが三つある。一つは大木、一つは宗教施設、いま一つは場末だ。この三つには共通するものがある。世界が口を空けている場だということだ。

大木はニュータウンにあるはずがない。そもそもニュータウンは、樹木をバッサイし、土や石を削って開発されたものだからだ。街には古木が少なからず残っている。お宮やお社に、あるいは街道沿いや町のすぐ外れに。大樹は、わたしたちの時間感覚の外にある。ふだんわたしたちがリアルに感じる歴史的な時間の幅はせいぜい数十年にすぎない。想い出を遡ってもせいぜい曾おじいちゃんの生きた時代くらいまでだ。戦後すぐに生まれた世代ならかうじて日露戦争くらいまで。いまの十代のひとならもう太平洋戦争は霧の彼方にあるのだろう。未来の時間軸はそれよりうんと短く、五年先のことも考えにくい。SFや未来小説の作家の構想力には脱帽だ。大樹の生はそんな時間の幅をはるかに凌駕する時間を宿している。じぶんの生をあらためて眺めるとき、その眺めのスケールをうんと大きくとってこの樹が生きてきた時間のなかに据えようと、じぶんという存在が違ってみえるはずだ。時間のスケールを変えるそのきっかけを、大樹はあたりまえのようにあたえてくれる。そこには、せいぜい親子三代の同時代をはるかに超えてそれとは別に流れる時間、自然のユウキュウの時間が、ひそやかに息づいている。

寺社。これはじぶんの生を眺めるその位置をずらすようながす。じぶんが立っているこの場所からじぶんの生を眺めるのではなく、この世界の「外」にある、ふだんは思いもしないうんと隔たった地点から、じぶんのいまとこを見つめる、そのきっかけをお寺やお社はあたえてくれる。知らない街を見る、味わうには、そのの生活を知ることが大事であって、その街の「名所」だけを回ったところではかたがたがない。そこは、親しい他者がこの世にやって来たり、あの世へ逝ったりするときに詣でる誕生と死の場所でもある。この世の「内」と「外」の回転扉とでも言うか……。そこには、わたしたちが日常生活のなかで共有しているごくふつうの世界観や感受性とは別の次元にある、^A 価値が宿っている。

そして場末。特定宗教施設とならんで、これもニュータウンのデザインのなかには入れられない。近づくのがちよつと怖いこの薄暗くていかかわしい場所は、鬱屈した不良たちがたまり場にする、あるいはある日突然「蒸発」し「ライレキ」を削除した中年男が身を潜める、そんな都市の「闇」を象徴している。都市の顔のその裏面にあって、ないことにされている翳りであり、吹きだまりである。さまざまの恨みつらみが堆積し、さまざまな不幸の影が差している場所である。そこはひとを追いやる場所というよりもむしろ、そこに身を沈めることで、緊急避難所として、ひとが息をひそめ、かろうじて生きのびることのできる場所でもある。せっぱつまった、追いつめられたと、おもっていたものが、じつさいそこに来れば^B。そんな別様でもありうるという感覚にじわりじわりなじんできくまで、生きるということの別の選抜肢がはじめて見えてくる。

^甲 存在の別の可能性への移行は現在のじぶんの崩壊を意味する。そのカタストロフィーの感覚に没入しかけるからだろう。

そんな「別の世界」への想像を駆る妖しい都市の隙間が、古木であり寺社であり場末だった。そして現代、消費の記号で埋めつくされてどこにも隙間のない都市、隙間さえも記号としてただちに消費されてしまうそんな都市において、古木と寺社と場末に代わるのが、ひよつとしたらアートなのではないかとおもう。それもまた一個の記号として消費される危うさをけつして免れていないし、また現にそうだとしても。

とはいえ、隙間は空虚というだけで肯定されるべきものでもない。どこにも隙間のない世界は、たしかに隙間が狭すぎて、別様の存在の可能性が見えなくなる。その世界はあまりに確固として硬く（ということはあまりに脆いということでもあるのだが）、ひとがなにか力を加えることで変わるといふ感じがしない。ひととしては、無力感、つまりはふんづまりの閉塞感に包まれる。が、隙間が大きすぎると、世界はゆるゆるのつかみどころのないものとなって、ひとはたえず不安に襲われる。その^Cで、隙間のない硬い世界以上に硬い世界を構築しようと焦ることになる。過剰なまでの合理主義や過度の饒舌、嫉妬心、被害妄想、さらには、つねに厳格に同じ仕方で同じ行為をおこなわないと安心できない常同行為、あるいは幼児性への退行現象といった、³ 定まった規則の確認への異様なまでのこだわりで、緩すぎるとその隙間を埋めあわせようとやっきになる。そうしてははじめにもとめていた^Dとは正反対のカタレプシー（硬

直状態」に陥ってしまう。この世界の「外」へ踏みだすのではなく、この世界の内部に閉塞しきってしまう。

京都という街には、こうした世界が口を空けているところが、まだまだたつぷりある。「あっち」の世界へ通じている孔が、まだいっぱいある。法悦の世界（神社仏閣）、推論の世界（大学）、陶酔の世界（花街）がそうだ。あるいは、別の生き方を選ぶきっかけになるところも、人生の避難場所も、探せばいっぱいある。みずからの存在理由を怪しんでいるひとが、ここだったら認められるかも、とおもえるような場所が。京都がテレビドラマの舞台になるときは、きまつて殺人事件が起こるし、熟年の女性が失恋の痛手を癒しにくる場所といえきまつて京都となるが、京都はいまでもドラマで描かれるよりはるかに、形而上学的に **乙** 街なのである。

（鷺田清一『京都の平熱』による）

問一 傍線部 a・c の片仮名を、漢字（楷書）で解答欄に記せ。

問二 本文中には、論旨の展開からいって余分な一文が挿入してある。それはどれか。空欄 **甲** よりも前の部分から選び、その文の最初の五字を抜き出して、解答欄に記せ（句読点や記号も一字と数える）。

問三 傍線部 1「〔反世界〕が組み込まれている」とはどういうことか。その説明として最も適当なものを次のイ・二から一つ選び、その符号の記入欄にマークせよ。

- イ 現実の姿の裏側に人間の情念がうごめいている
- ロ 秩序全体を破壊させる起爆剤が潜んでいる
- ハ 異なる価値観が見えるかたちになっている
- 二 新たな世界を生み出す認識が内在している

問四 空欄 **A** **D** に入る最も適当な語句を、それぞれ次のイ・二から一つ選び、その符号の記入欄にマークせよ。

- A イ 超越的な ロ 肯定的な ハ 一元的な 二 精神的な
- B イ 誰も見えて見ぬふりをする ロ それはそれでひとつの人生である
- ハ、懐が深すぎてなかなか入り込めない 二 複雑な現在が交錯し衝突しあう
- C イ 諦念 ロ 反動 ハ 延長 二、陶酔
- D イ 可分性 ロ 可知性 ハ 可塑性 二 可換性

問五 空欄 **甲** に、次のイ・二の文を正しく並び替えて入れるとしたら、三番目に来るものはどれか。最も適当なものを選び、その符号の記入欄にマークせよ。

- イ わたしたちの日常の共通感覚（コモンセンス）をひきつらせるとい意味で、妖しい場所である。
- ロ 惹きつけられるのは、シュルレアリストたちが合言葉にしていた *changer la vie*（生を変える）、つまりじぶんの存在の別の可能性へと揺さぶられるからだろう。
- ハ 大樹と寺社といかがわしい場末に共通しているのは、それらがこの世界の「外」に通じる開口部や裂け目であるということだ。
- 二 そして妖しいというのは、怖いけれども（あるいは、怖いがゆえに）どうしようもなく惹きつけられる場所とということでもある。

問六 傍線部2「消費の記号で埋めつくされてどこにも隙間のない都市」とはどういうことか。その説明として最も適当なものを次のイ〜ニから一つ選び、その符号の記入欄にマークせよ。

- イ あらゆるものが消費されるべき記号となり、その記号間に隙間としての差異が見出しにくくなった都市
- ロ あらゆるものが消費の対象として記号的に位置付けられ、日常世界の外に通じるようなものがない都市
- ハ あらゆるものが記号化されてしまい、記号化されない消費者が逃げ込む隙間がなくなってしまった都市
- ニ あらゆるものが広告の対象とされ、消費者に対してさまざまな記号が満ち溢れ、ほかに隙間がない都市

問七 傍線部3「定まった規則の確認への異様なまでのこだわり」と正反対のあり方を記した箇所を、空欄 甲 よりも後の部分から十字以上十五字以内のひと続きの部分で抜き出すとするならば、それはどこか。その最初の五字を解答欄に記せ（句読点や記号も一字と数える）。

問八 空欄 乙 に入る最も適当な語句を、空欄 甲 よりも後の部分から三字以上五字以内で抜き出して、解答欄に記せ。

問九 この文章では、「京都」という街の〈反世界〉に関して、多方面から議論しているが、なお議論が十分に展開されていないものがある。それはなにか。最も適当なものを次のイ〜ニから一つ選び、その符号の記入欄にマークせよ。

- イ 推論の世界 ロ 陶酔の世界 ハ 法悦の世界 ニ 隙間のある世界

問十 次のイ〜ニの文章のうち、本文の論旨に合わないものが一つあるが、それはどれか。最も適当なものを選び、その符号の記入欄にマークせよ。

イ 京都は隙間だらけの街であり、さまざまな「別の世界」がそこかしこにある。そのため、京都という街に触れるだけで、うちひしがれた心に癒しが与えられるように感じられる。

ロ 京都には、街の中に別の宇宙を宿している場所が数多くあり、そうした場所に立った時、身体感覚をときずませ、違和感を感じさせる点で、あるべき都市としての条件が備わっている。

ハ 日常的な生活に対する〈外〉からの視線を持つことは、効用・意義といった合理性とは無関係なことであり、京都はそうした視線を持つことも許容するような寛容さを持っている。

ニ 京都における都市という文化装置は、錯綜した多面体であることを保持しようとして野性を締め出し、伝統的な日本人の故郷としての自然環境を保つことで成り立っている。

次の文章は新井白石の『鬼神論』の一部である。これを読んで、後の問いに答えよ。

死せる人が人によりて物云ふが如きは、鬼は幽に靈にして明に靈ならず。故に鬼の出づる事、多くは夜を以てす。人によりて後には、明にも亦た靈なる事を得。鬼既に人の身をかりておのが身となしなんには、ただに物云ふことのみに限るべしやは。詩を賦し字を書し、およそは人のなしなんほどの事、いづれの事かなす A。

かのよらるる人、多くは奴婢の卑賤なる、兒童の幼昧なるぞかし。しからざれば、衰病の人の久しからで死ぬべきの類なり。これらの人は皆、魂昏く魄弱ければなり。鬼襲ひてその舎に入れるなり。これらの鬼、ただに人の身をかゝるのみにあらず。或はまた物にかりて妖をなす事あり。齊の公子彭生がいのししとなれる類これなり。

かのいけるが³人による事は、このよらるる人の想ひによりて感じ得る有り。また遊魂有りてかの⁴人にかはりてよれる有り。

昔、人有り。江をわたるに、その妻あやまつて舟より落ちて水に沈みぬ。夫なくなく金山寺にゆきて僧を請じてなきあとのいとなみしけり。かの女忽ちにしもべ女により来たりて、「自らはなほその所に有り」とぞいひける。かの死せし時の苦しきによりて、その魂もかくこの世の中にまよふらん事のあさましきとて、聞く人みな B をじほりけり。かくて三日の後、釣りする翁、かの妻を具して来たり。まことは始めより死せるにあらず。水に浮み出しが、流れてうづまく所にただよふを、あまの小舟さしよせて、たすけえたるなり。これそのしもべ女の、主のわかれをなげく心の切なるによりて、かくはるかに相感じ得たるものなりとぞ。

また【或人の遠き国にゆくが、むかしわが妻の心見んとて、その金のかんざしをとりて壁中にかくせし事の有りしを、事にまぎれてかくともいはずで出でたつ。他の国にて病におかされて、死すべきにのぞみて、供に具したる男にこの事を告げたり。ふるさにとどまれる妻、夫のゆくあをおもひつづけて、ただひとり立ちしに、忽ちにおほざらの中にして人の声するを、あやしと聞くに、まさしくわが夫の声なり。】みづから既に死し侍りぬ。日ごろ見えざりしかんざしは、まことはわれかくせしなり。われ死せし事まことにおもひ給はざらんには、いづこの壁の中を見給へかし。是をしるしとしたまへ」とぞいひける。うつつなき事とおもひしかど、おしへのままに、その壁の中を見るに、まことはかんざし有りけり。妻は天を仰いでなく。やがて C の事などいとなみてけり。いくほどなくて、夫は病いえて帰り来たりけれど、妻は死したる人の魂の帰り来たりにけりと、大いに驚きまどひけり。】これらの如きは、また遊魂の人をあざむきてかかるふるまひをしたるなりとぞ云ひ伝へはべり。

問一 傍線部1「靈なる事」の具体例として作者があげていないものを次のイ、ホの中から一つ選び、その符号の記入欄にマークせよ。

イ 妖異をなすこと

ロ 文字を記すこと

ハ 話をすること

ニ 死者をよみがえらせること

ホ 漢詩を作ること

問二 空欄 A に入るものとして、最も適当なものを次のイ、ホの中から一つ選び、その符号の記入欄にマークせよ。

イ べからざらん

ロ べけんや

ハ べし

ニ べき

ホ べからず

問三 傍線部2「よらるる人」の具体例として、不適切なものを次のイ、ホの中から一つ選び、その符号の記入欄にマークせよ。

イ 幼児

ロ 下女

ハ 下男

ニ 瀕死の病人

ホ 高德の僧侶

問四 傍線部3「いける」と傍線部4「人」が指すものの組み合わせとして、最も適当なものを次のイ、ホの中から一つ選び、その符号の記入欄にマークせよ。

イ 3 「妻」と4 「夫」

ロ 3 「夫」と4 「妻」

ハ 3 「妻」と4 「しもべ女」

ニ 3 「しもべ女」と4 「妻」

ホ 3 「僧」と4 「夫」

問五 傍線部5「かの人」が指すものとして、最も適当なものを次のイ～ホの中から一つ選び、その符号の記入欄にマークせよ。

イ 僧 □ 妻 ハ 釣りする翁 ニ 供に具したる男 ホ 夫

問六 空欄 B に入れるべき語として最も適当なものを次のイ～ホの中から一つ選び、その符号の記入欄にマークせよ。

イ 油 □ 布 ハ 汗 ニ 袖 ホ 頭

問七 空欄 C に入るひらがな四字の言葉を本文中から抜き出して解答欄に記入せよ。

問八 本文の内容として最も適当なものを、次のイ～ホの中から一つ選び、その符号の記入欄にマークせよ。

イ 幽霊は夜に現れることが多いが、その暗さのためにあまり力を発揮できないことが多い。

□ 幽霊は人に取りつくことができるが、日中では夜と同じように力を発揮することができない。

ハ 長江を渡るうとした夫婦のうち、妻は水に落ちたが溺死せず、その魂が人に憑依して自分の無事を語った。

ニ 長江を渡るうとした夫婦のうち、妻が水に落ちて死に、夫は金山寺で葬儀をとりおこなった。

ホ 妻を家に残して遠くへ旅に出た夫は、壁の中に自分がかくした金のかんざしを留守中に妻が見つけたことを知っていた。

問九 本文中、太字括弧(一)でくくった部分は、左に掲げる漢文の内容にもとづいて白石が記したものである。この漢文を読んで、後の(1)～(3)の問いに答えよ。

昔、人有^リ遠行^{スル}者。欲^シ観^ニ其妻^ノ於^{ケル}己^ニ厚^ヲ薄^ヲ取^リ金^ヲ釵^ヲ藏^ニ之^ヲ壁^ニ中^ニ忘^ル以^テ語^ラ之^ニ。既^ニ行^キ而^モ病^ミ且^ニ死^{セント}以^テ告^グ其僕^ニ。既^ニ而^モ不^レ死^セ。忽^ニ聞^ク空^ニ中^ニ有^ル声^ヲ。真^ニ其夫^ノ也。曰^ク「吾^レ已^ニ死^{セリ}。以^テ為^{サバ}不^レ信^{ナラ}金釵^ハ在^ニ某^ニ處^ニ」。妻^ハ取^リ得^レ之^ヲ。遂^ニ發^ス喪^ヲ。其^ノ後^ハ夫^ノ婦^ノ妻^ハ乃^チ反^テ以^テ為^ス鬼^ト也。

(「東坡志林」)

(1) 白石の文章中に見える次のイ～ホの語句の中には、右の漢文中に対応する文言が見えないのに、前後のつながりを分かりやすくするために補われたものがある。最も適当なものを一つ選び、その符号の記入欄にマークせよ。

イ 或人の遠き国にゆくが □ 金のかんざしをとりて壁中にかくせし

ハ かくともいはで出でたつ ニ 夫のゆくゑおもひつづけて

ホ まさしくわが夫の声なり

(2) 傍線部7「既而不死」の意味として最も適当なものを一つ選び、その符号の記入欄にマークせよ。

イ もはや死んでいる □ その後死をまぬがれた

ハ しばらくは生きていた ニ すでに元気になっていた

ホ その後死なないわけではない

(3) 傍線部8を「たちまちくうちうにこゑあるをきく」と訓読する場合、解答欄の白文に最も適当な返り点を記入せよ。ただし送り仮名は書かないこと。